

京都部落問題 研究資料センター通信

第4号

発行日 2006年7月25日 (年4回発行)

編集・発行 京都部落問題研究資料センター

師岡佑行さんの死を悼む

京都部落問題研究資料センター所長 秋定 嘉和



1997年11月、京都部落史研究所主催シンポジウム「教育・啓発における部落史の再検討」にて

愛称「師さん」が死んだ。定宿にしていた沖繩での事故死とのことである。私にとっても大きなショックである。先年の馬原鉄男、田辺昭三氏につづく先輩の死である。寂然としない死の事情については、すぐ沖繩に飛ばれた人々が経緯を納得されているようで、そのようにしておきたい。

ており、ありがたく思っていたときのことであった。私情をはさんだ回想もふくめて以下、申し上げたい。私と師さんとは学生時代からの先輩と後輩にあたり、五十年余にわたるおつきあいをさせていた。お会いした時は、尼崎の自宅で妹さんと一緒に私塾をなさり、お母さんとの生活を支えておられた。師さんの一生は、死ぬまで世

の中に「異議申し立て」を続けることであった。それは沖繩での友人も証言されていることである。

私の経験では、尼崎市に対する住居裏の泥川の排水工事の要請を住民と共にやっておられ、工事完成にこぎついたところであった。まさに「地域闘争」のはしりであった。ついで、「村の歴史・工場の歴史」の運動に参画され、これには私もまきこまれ、地域に紙芝居や映画フィルムをもちまわった記憶がある。

大学では、京都の多くの学生をまきこんだ「荒神橋事件」があり、府警にも抗議デモを行い、「日米安保条約反対」デモなどがあつた。師さんは、私たち日本史の学生を組織して現行の教科書の民主的内容への改訂を求めて運動を行なった。当時の日本史研究にも反映していたと思われる。また、全国の大学を巻き込んだ全共闘運動でも、当時立命館大学の非常勤講師をしていたが、当局に対する激しい異議申し立てを行なった。

その後、師さんは部落問題に関心をもたれた。「部落研」活動のはじまりで、師さんの半生を画期づけた動向である。このとき、奥さんの笑子さんと出合われて貴重



2000年7月、京都部落史研究所から京都部落問題研究資料センターへの改組にあたっての記者会見にて

な果実をえられたというべきであった。

その後、師さんは運動の徹底化をめざされたのであろう、大阪の解放新聞社に移られ、主筆となり、紙面の刷新をめざされた。しかし、運動との関わりを深められていくなかで挫折されて若狭にひきこまれたのである。そこで手にされたのが川渡甚太夫の自伝で、その後『川渡甚太夫一代記』（一九八一年、柏書房、のち一九九五年、平凡社「東洋文庫」に収録）としてまとめられた。今は亡き夫人との愛を込めた仕事であった。

ついで一九七七年には京都の部落解放同盟の依頼をうけて京都部落史研究所を設立し、『京都の部落史』の編さんに関与し、以後二十年にわたる皆さんとの協働作業

に従事された。そのかたわら、自分も参加した解放運動の理論的体系化をめざされて『戦後部落解放論争史』（全五巻、一九八〇年～八五年、柘植書房）を単独で執筆された。この書は戦後の解放運動史の理論と研究に大きな役割を果たすことになった。

また、この作業のかたわら『西光万吉』（一九九二年、清水書院）、『米田富と水平社のころ』（二〇〇一年、阿吡社）なども著述された。棺をおおって考えるとき、師さんは、多様な社会運動に参加され一貫して社会的正義の場に身を置いて発言し行動された。残された『京都の部落史』（一九八四年～九五五年、共編、全十巻）と『戦後部落解放論争史』は後世にまで伝わる書である。合掌

師岡佑行さんの略歴と主な業績

（雑誌論文、事辞典類は省く）

- 一九二八年
十月二十一日、神戸市に生まれる
- 一九四九年
尼崎市立長洲小学校に在職中（代用教員）レッド・ページをうける
- 一九五一年
朝鮮戦争反対のピラをまいたため占領軍政策違反により逮捕・起訴、対日講和条約発効により免訴となる
- 一九五三年
立命館大学文学部日本史学専攻に編入学
- 一九五五年
三月、立命館大学文学部卒業
- 一九五九年
大津市史編さん事業に携わる
- 一九六一年
三月、立命館大学大学院文学研究科日本史専攻修了
- 一九六一年
九月、浜田笑子さんと結婚、尼崎市に住む
東尼崎診療所をめぐる日本共産党阪神地区委員会との抗争で同党を除名される
- 一九六二年
『講座日本文化史』第七巻（共著、三一書房）
立命館大学文学部講師
- 一九六五年

- 「近世的合理論の展開」（河出書房新社『近世日本思想史研究』）
- 一九六七年
春、京都市に転居
- 一九六九年
大学闘争で全共闘を支持して立命館大学講師を退職
「懷徳堂 中井整庵」（淡交社『日本の私塾』、一九七四年に角川文庫に収録）
三月、尼崎市史別冊『尼崎の戦後史』（尼崎市）
五月、執筆の『尼崎の戦後史』が市によって回収され抗議運動が起こる
- 一九七〇年
「新宮涼庭」（淡交社『歴史の京都 三』）、「弘道館」「文武学校」「明道館」（淡交社『日本の藩校』）
- 一九七一年
大阪市東住吉区矢田に転居、矢田診療所で医療運動にあたる
十二月、「部落解放中国研究会」結成に参加する
- 一九七三年
九月、解放新聞主筆（一九七五年二月まで）
- 一九七五年
九月、喘息転地療養のため淡路島西浦の奈良本邸にうつる
- 一九七六年
三月、福井県美浜町久々子に転居 和綴四冊の『川渡甚太夫一代記』を披見する
- 一九七七年
京都市の山科団地に転居
五月、『狭山・虚構の判決 狭山事件弁護団上告趣意書より』（編著、新泉社）

- 六月、京都部落史編さん委員会準備会を主宰し、京都の部落史編さん事業を開始する
- 九月、『日本文化史 二』（共著、有斐閣）
- 十一月、京都部落史研究所所長に就任（二〇〇〇年六月まで）
- 一九八〇年
八月、『矢田・戦後部落解放運動史 一』（矢田同和教育推進協議会）
九月、『戦後部落解放論争史』第一卷（柘植書房）
- 一九八一年
三月、『部落解放理論の創造に向けて』（大賀正行・沖浦和光と共著、解放新聞社）
五月、『戦後部落解放論争史』第二卷（柘植書房）
十一月、『北前船頭の幕末自叙伝 川渡甚太夫一代記』（師岡笑子と共著、柏書房、一九九五年十一月に平凡社東洋文庫より『川渡甚太夫一代記 北前船頭の幕末自叙伝』として刊行）
- 一九八二年
二月、「解説」（京都部落史研究所編『復刻 部落解放人民大会速記録』）
八月、『戦後部落解放論争史』第三卷（柘植書房）
十月十日、妻・笑子さん死去、四十八歳
- 一九八三年
三月、『知りたがらない日本人 フランス人のみた部落問題』（監修、柏書房）
- 一九八四年
二月、『京都の部落史』第三卷（編集責任、京都部落史研究所）
三月、『現代部落解放試論』（柘植書房、一九九一年十月に増補版刊行）
十一月、『戦後部落解放論争史』第四卷（柘植書房）
十二月、『京都の部落史』第六卷（編集責任、執筆、京都部落史研究所）

- 一九八五年
九月、『京都の部落史』第七卷（編集責任、京都部落史研究所）
十二月、『戦後部落解放論争史』第五卷（柘植書房）
- 一九八六年
八月、『京都の部落史』第四卷（編集責任、京都部落史研究所）
- 一九八七年
三月、『京都の部落史』第八卷（編集責任、京都部落史研究所）
六月、『いま部落解放に問われているもの 現代部落解放論』（明石書店）
九月、『京都の部落史』第九卷（編集責任、執筆、京都部落史研究所）
- 一九八八年
七月、『京都の部落史』第五卷（編集責任、京都部落史研究所）
八月、『同和はこわい考を読む』（共著、阿吽社）
- 一九八九年
十月、妻笑子さんの遺稿集『さかのぼれる舟よ ひとたびかいま見せよ
―早過ぎる自叙伝のための覚書・他』（創樹社）を刊行
十一月、『京都の部落史』第十卷（編集責任、京都部落史研究所）
- 一九九一年
十一月、『京都の部落史』第二卷（編集責任、執筆、京都部落史研究所）
- 一九九二年
一月、『解説』（河出書房新社『宮武外骨著作集 第八巻』）
三月、『西光万吉』（清水書院）
- 一九九四年
四月、『近代に生きる人びと 部落の暮らしと生業』（共著、阿吽社）
- 一九九五年
六月、『解説』（平凡社『日本残酷物語 三鎖国の悲劇』平凡社ライブラリー）
- 十月、『近江八幡の部落史』（監修、執筆、近江八幡市）
十二月、『京都の部落史』第一卷（編集責任、執筆、京都部落史研究所）
- 一九九七年
京都新聞大賞第四十一回文化学術賞受賞
- 一九九八年
八月、『部落史を読む』（藤田敬一と共編、阿吽社）
- 一九九九年
一月、沖縄県那覇市に転居
- 二〇〇〇年
三月、『野洲の部落史』（監修、執筆、野洲町）
七月、京都部落史研究所から京都部落問題研究資料センターへ改組、資料センター顧問となる
- 二〇〇一年
十一月、『米田富と水平社のころ』（阿吽社）
- 二〇〇五年
九月、琉球新報に「日露戦争と沖縄 百年前、『琉球新報』はどう伝え
たか」全三十二回（九月五日～十月二十一日）を連載
- 二〇〇六年
六月十二日、沖縄県那覇市にて死去、七十七歳

(文責 編集部)

本の紹介

フリリップ・ポンス著

『裏社会の日本史』

河村義長

本書の著者であるフリリップ・ポンスは、一九四二年パリ生まれで、政治学・社会学を学んだ後、東京日仏会館の研究員から、一九七五年に「ル・モンド」紙記者となり、日本特派員を長年務め、現在「ル・モンド」東京支局長である人物である。記憶の良い向きには、二〇〇四年四月のイラクにおける日本人質事件の際、人質になった三人の若者を力強く弁護する論評を「ル・モンド」紙において、行った人物であることを覚えておられるかもしれない。彼は、日本国内の自己責任論で追い詰められた若者達を、弁護する意見を「ル・モンド」紙に掲載したのである。

本書のキャッチフレーズは、「中世における賤民から現代の都市にとり残された経済的弱者まで、

また、江戸の博徒や義賊から近代以降のやくざまで―「ル・モンド」の日本特派員を務めるフランス知識人が、社会の周縁に生きる人々の営みの変遷をたどる意欲作」というものである。

本書の目次は以下の通り

- 第一部 日陰の人々
- 第一章 中世における周縁民
- 第二章 江戸期下層のヒエラルキー
- 第三章 国民国家の周縁で
- 第四章 大変容
- 第五章 大日本を支えた労働者たち
- 第六章 どんづまりの街
- 第二部 やくざ
- 第一章 江戸の犯罪
- 第二章 義賊
- 第三章 敗戦期のやくざから暴力団まで
- 第四章 やくざの組織・権威・伝統
- 第五章 あたらしいやくざ
- 第六章 露天商
- 第七章 路上の花火師たち
- 第八章 テキヤ―帰属と拒否
- 結論

まず序文で筆者はこう述べる。「日本のヤクザと貧苦の人々についての書である。社会の暗部の諸相を把握し、現代日本の周縁的空間に光を当ててを目的としている。(中略)現代の日本社会を総体としてよりよく理解するための手がかりとなろう」

では本書でいう裏社会とはなんなのだろうか。それは、排除されることで漂泊の民となり、社会の周縁に押しやられた人々のことである。まず第一部では、中世の賤民に起源をもつ被差別民の存在が語られる。そして、明治以降の下層労働者へと筆がすすみ、横山源之助が「日本之下層社会」で描いたような貧困層の姿が描かれる。そして著者が「どんづまりの街」と呼ぶ現代の山谷や釜が崎の住民にも言及している。

そして、第二部では江戸の侠客や、明治の義賊について触れ、右翼思想と結びついて、日本軍との協力関係を築いた戦前の「愛国的やくざ」の存在についても位置づけている。そして戦後の政界や財界との結びつきを強めた「黒幕」

や日本の三大暴力団の親分衆の生態についても述べている。

おそらく著名な外国人ジャーナリストの書いた書であると言うことで、好意的評価をされているようだが、オリジナリティは全く無いと言っている書である。しかし、本書の圧巻はその膨大な註である。できるだけ最先端の研究成果を生かそうという努力と博学傍引ぶりは、敬意に値する。読者は本書を導きとして、さらに奥の深い研究に触れることができるだろう。

安永愛訳、筑摩書房刊、二〇〇六年三月



筑前竹槍一揆』上杉聰／高田一宏著『教育コミュニティの創造—新たな教育文化と学校づくりのために』越田幸洋／桜井厚著『境界文化のライフストーリー』妻木進吾

部落解放研究 170号（部落解放・人権研究所刊，2006.6）：1,000円

特集 学力問題をめぐる国際動向

共に生きる社会を形成する—学力国際リテラシー調査とキー・コンピテンシー— 立田慶裕／イギリスにおける教育改革の動向と「効果のある学校」論 志水宏吉

中世の差別意識と天皇制—網野善彦氏批判— 上杉聰

鳥取県人権救済条例の意義と課題 金子匡良

2004年度全国隣保館実態調査から見えてくる課題 伊藤勝彦

「フリーター」「ニート」をめぐる研究動向 亀山俊朗
書評

赤尾勝己編著『生涯学習理論を学ぶ人のために』堀薫夫／中島久恵著『モノになる動物のからだ—骨・血・筋・臓器の利用史』松井章

部落解放研究くまもと 51号（熊本県部落解放研究会刊，2006.3）

特集 新しい部落史の見方について

部落史の新しい見方 山本尚友／九州における前近代史研究の成果と課題 竹森健二郎／佐賀県における被差別民の支配構造—末次村の刑左衛門について— 中村久子／「腑分けの巧者、虎松」のこと 大野滋

れきし・くらし・ひと 21 部落史古文書研究会

部落問題研究 175（部落問題研究所刊，2006.4）：1,111円

住民の意識と教育・学習—滋賀県・日野町における意識調査報告— 梅田修

18世紀中期の南王子村の村落構造 三田智子

史料紹介 中野三憲著「概況一斑大阪府泉北郡南王子村」（1914年11月） 西尾泰広

部落問題研究 176（部落問題研究所刊，2006.6）：2,187円

第43回部落問題研究者全国集会報告

歴史1分科会

知識・技術の所有と身分 海原亮／近世身分制社会という捉え方—朝尾直弘氏の近世社会論 塚田孝／私の近世身分制社会の研究について 朝尾直弘

歴史2分科会

近代日本のハンセン病者と地域—ハンセン病自由療養地をめぐる議論を素材に— 廣川和花／第一次世界大戦期の都市社会と米騒動—大阪市北西部の工業地帯を素材に— 島田克彦

現状分析・理論分科会

地域における人権課題と調査をめぐって 石倉康次／ま

ちづくりの実践と課題—北九州市小倉南区志井地区の経験から— 大迫隆典／同和対策「特別法」の失効に伴う特別措置としての同和対策事業の終了のもとで問われている行政のあり方 辻本甚昭

教育分科会

子どもの権利をめぐる論点と課題 丹羽徹／人権に関する認識形成と人権教育 川辺勉／子どもの人権認識を育てる教育実践—みんなの思い・ねがいが大切にされる学級を— 大川克人

文芸分科会

「わたしが・棄てた・女」をめぐって—『検証会議最終報告書』・「文壇におけるハンセン病観」に対して— 小原亨／検証会議「文壇におけるハンセン病観」総批判 秦重雄

もやい 長崎人権・学 51号（長崎人権研究所刊，2006.3）：700円

特集 <人権意識調査>から教育・啓発へ

05年版「人権に関する県民意識調査」を読む 藤澤秀雄／「人権教育のための国連10年」行動計画から新しい長崎県「人権教育・啓発基本計画」へ 長崎県人権・同和対策課／体験的参加型学習に期待すること 傳均

ライツ 83（鳥取市人権情報センター刊，2006.4）

今月のいちおし！『PISAショック 学力は保育で決まる』（辻井正著） 坂根政代

ライツ 85（鳥取市人権情報センター刊，2006.6）

今月のいちおし！『ハンセン病 重監房の記録』（宮坂道夫著） 藤田澄代

Regional リージョナル 1号（奈良県立同和問題関係史料センター刊，2006.5）

薬師寺周辺地域における新田開発村の成立をめぐって 井岡康時

有馬温泉の「癩」者・坂者・夙 吉田栄治郎

法隆寺郷常楽寺市はどこか？ 奥本武裕

『研究紀要』総目次

『奈良県同和問題関係史料』一覧

広報誌リパティ 33（大阪人権博物館刊，2006.4）

展示批評 大阪人権博物館の総合展示について 黒川みどり

総合展示コーナー2 私の価値観と差別 検索画面の修正について

りべらしおん 16号（福岡県人権研究所刊，2006.3）

本の紹介 『史料集 浪速部落の歴史』（「浪速部落の歴史」編纂委員会編刊）

りべらしおん 17号（福岡県人権研究所刊，2006.5）

本の紹介

『若者が働くとき』（熊沢誠著）／『「あたりまえ」を疑う社会学 質的調査のセンス』（好井裕明著）

廣岡浄進

ひょうご部落解放 120 (ひょうご部落解放・人権研究所刊, 2006.3) : 700円

特集 『人権政策マップ』 兵庫県内自治体の人権政策の現状

本の紹介

『はじめての部落問題』 (角岡伸彦著) / 『神戸大空襲戦後60年から明日へ』 (神戸空襲を記録する会編)

[ひょうご部落解放・人権研究所] 研究紀要 12号 (ひょうご部落解放・人権研究所刊, 2006.3) : 1,000円

播磨国姫路高木村の高田家文書 (皮革編その1) 兼本雄三/倉橋昌之/高木伸夫/永瀬康博/藤原豊

金子念阿の部落問題論 前川修

地方改良運動期における神戸の部落改善運動 水平運動・融和運動への契機と歴史的前提 本郷浩二

赤穂松茸山入会権闘争の歴史的意味 部落委員会活動との関係を通して 朝治武

兵庫県水平社と政治運動 1920年代を中心に 関口寛

1920年代の兵庫県水平運動と融和運動 手島一雄

初期全国水平社内での対立に翻弄された世良田村事件 駒井忠之

部落解放 565号 (解放出版社刊, 2006.5) : 630円

特集 検証 障害者自立支援法

差別の精神史 35 差別のフォークロア— 東日本編 8 赤坂憲雄

本の紹介

『水俣病誌』 (川本輝夫著) / 『<野宿者襲撃>論』 (生田武志著)

差別の歴史を考える 20 賤民制度の廃止 ひろたまさき

見なされる差別考 番外編 なぜ部落問題だけが人権問題と表現されていくのか 奥田均

部落解放 566号 (解放出版社刊, 2006.6) : 630円

特集 「破戒」百年

新たな戦争、新たな格差社会の『破戒』へ 『破戒』と『破戒』をめぐる論議を今、読みなおす意義 高橋敏夫

／文学史に見る『破戒』なぜ読み継がれるのか 音谷健郎／価値だけでなく課題として 『破戒』の今日的意味

川元祥一／差別のありようとそれへの向き合い 歴史学の視点から『破戒』を読む 黒川みどり

差別の精神史 36 差別のフォークロア 東日本編 9 赤坂憲雄

本の紹介 『ユージン・スミス 楽園へのあゆみ』 (土方正志著)

マイノリティ当事者からの訴え 「人権の法制度を提言する市民会議」結成記念集会から

新たな出入国管理体制の構築 入国外国人に指紋・顔情報の提供を義務づける「改定入管法案」について 丹羽

雅雄

もうひとつの日本の歴史 在日コリアンの歴史資料館誕生 辛野乃

東京における戸籍謄本不正取得事件の取り組み I 行政書士とH調査会社の結託による差別身元調査の真相 藤本忠義

壁をたたき音がきこえる ハンセン病患者冤罪処刑事件を問う 山下峰幸

悪化傾向への懸念 大阪府「人権問題に関する府民意識調査」に見る部落差別の現実 奥田均

差別の歴史を考える 21 「賤民」の解体と再編 ひろたまさき

部落解放 567号 (解放出版社刊, 2006.6) : 1,050円

人権キーワード2006

部落解放 568号 (解放出版社刊, 2006.7) : 630円

特集 男女共同参画基本計画を検証する

第二次計画の策定とバックラッシュ 橋本ヒロ子／数値目標の具体化が課題 「政策・方針決定の場への女性の参画」をめぐる

森屋裕子／ジェンダー秩序の組み替えを 雇用と女性 中島通子／男女共同参画施策と教育の男女平等

木村涼子／男性にとっての男女共同参画 伊藤公雄

差別の精神史 37 差別のフォークロア 東日本編 10 赤坂憲雄

差別を認定し、糾弾を是認 松阪商業高校教員差別事件の名古屋高裁判決について 丹羽雅雄

水平線をかけぬけた永遠の少年闘士 全国水平社少年代表—山田孝野次郎の生涯 仲林弘次

水俣病 残された課題 水俣病公式確認五十年の年に 遠藤邦夫

差別の歴史を考える 22 芸娼妓解放令 ひろたまさき

部落解放研究 169号 (部落解放・人権研究所刊, 2006.4) : 1,000円

特集 大阪の人権・同和行政の試み

地方分権時代の人権・同和行政の課題—指定管理者制度と隣保館にふれながら— 中川幾郎／大阪府の人権・福祉行政を推進した総合評価制度の役割について 大阪府総合評価検討会議／法期限切れ後の部落差別の実態把握

谷川雅彦

近世後期天王寺長吏林家における相続をめぐる—長吏文書研究会の活動より— 下 高久智広

国による学力調査から何を学ぶのか—OECDのPISA調査を中心に— 小倉康

報告 人種差別撤廃委員会一般的勧告31—刑事司法制度の機能・運用における人種差別の防止・撤廃に向けた指針— ジョージナ・ステューブンス

書評

石瀧豊美著『筑前竹槍一揆の研究—廃藩置県・解放令・

井英樹

月刊スティグマ 119号 (千葉県人権啓発センター刊, 2006.3) : 500円

部落史を歩く 1 「久留里の被差別部落」「里見氏と被差別民」 坂井康人

月刊スティグマ 120号 (千葉県人権啓発センター刊, 2006.4) : 500円

特集 障害者への差別をなくすための条例

部落史を歩く 2 里見氏と皮作り 坂井康人

月刊スティグマ 121号 (千葉県人権啓発センター刊, 2006.5) : 500円

特集 「私たちも言いたい 子どもの権利条約」を見て～香川県三豊市での人権教育の取り組み～

報告 部落差別の調査・研究の成果が続々形に

橘史学 20号 (京都橘大学歴史文化学会刊, 2005.11)

「語り」と想像力 ひろたまさき

月刊地域と人権 267 (全国地域人権運動総連合刊, 2006.4) : 350円

特集 同和対策や解同等の問題状況と課題

月刊地域と人権 269 (全国地域人権運動総連合刊, 2006.6) : 350円

閉鎖性を永続化する同和公営住宅 森元憲昭

和歌山県における大型共同作業場の現状と課題 橋本明彦

なら解放新聞 732号 (奈良県部落解放同盟支部連合会刊, 2006.3) : 140円

話題の食の安全について 全横浜屠場労組

痛ましい事件の背後にあるもの—社会の「外」でなく「内」にある犯罪— 浜田寿美男

なら解放新聞 734号 (奈良県部落解放同盟支部連合会刊, 2006.5) : 140円

講演録 地域社会の歴史的諸相を考える 1 吉田栄治郎

奈良県立同和問題関係史料センター研究紀要 12号 (奈良県教育委員会刊, 2006.3)

行政史料から見た初期奈良県水平社の諸相 井岡康時

奈良奉行川路聖謨が見た幕末大和の被差別民 吉田栄治郎

中世大和の千秋万歳考 山村雅史

19世紀大和における真宗フォークロアの生成・序説 奥本武裕

<あはれ>へのまなざし—「鉢叩き」をめぐる蕉門の句を手掛かりに— 中川みゆき

史料紹介 市場村南里の「草場村覚帳」 中村泰彦

水平社創立の思想—水平社博物館展示からみえるもの— 守安敏司

ねっとわーく京都 209 (ねっとわーく京都21刊, 2006.6) : 500円

話題の本を読む 寺園敦史著『だれも書かなかった「部

落』』『「同和」中毒都市』 小村和義

ねっとわーく京都 210 (ねっとわーく京都21刊, 2006.7) : 500円

同和行政ウォッチング まだあった! 「同和」厚遇事業—解放同盟、全解連の事務所在地20年以上ただ貸し 寺園敦史

同和奨学金で損害賠償を認める判決 岡根竜介

反差別人権研究所みえ通信 4 (反差別・人権研究所みえ刊, 2006.3)

二つの”同和地区生活実態調査報告書”を読む 宮城洋一郎

反差別人権研究みえ 5号 (反差別・人権研究所みえ刊, 2006.6)

農業・農村と部落問題試論 長谷川健二

近世の伊勢の山の民「木地師」の人々 和田勉

このまちでありのまま生きたい

1. 精神障害のある人を取り巻く状況 荒川哲郎/2. 講演「このまちでありのまま生きたい」 塚本正治/3. 大阪の池田小学校事件の二次被害から見えてきたこと 荒川哲郎

自尊心と人権意識について 笠原正嗣・関根薫・筒井琢磨

高齢層の人々への人権啓発課題について—四日市市民人権意識調査から— 宮城洋一郎

ヒューマンライツ 217 (部落解放・人権研究所刊, 2006.4) : 525円

現代史の目 52 玉砕と瓦全 小山仁示

「なぜ」という疑問から始まった新聞記事分析—多文化共生社会を願って 地域の国際交流を進める南河内の会 移民社会に見るカースト差別 ロンドン郊外・サウソール訪問記 中村隼人

危険な学校選択制 差別越境と公教育否定を促進 中村清二

浸透する人権理念、今後の課題をどう深めるか—仲多度郡同和问题意識調査の分析から— 福家寛

玲子さんの映画批評 「クラッシュ」 (ポール・ハギス監督, 2005年) 水面下に深く根を下ろす差別意識

ヒューマンライツ 218 (部落解放・人権研究所刊, 2006.5) : 525円

戸籍と人権—個人の尊重、戸籍のあり方— 二宮周平

走りながら考える 最近の差別事件の背景を考える—「同和バッシング」の影響— 北口末広

ヒューマンライツ 219 (部落解放・人権研究所刊, 2006.6) : 525円

連載 走りながら考える 電子版「部落地名総鑑」の意味すること 情報化が差別意識を限りなく増幅 北口末広

書評 中尾健次・黒川みどり著『続 人物でつづる被差別民の歴史』 差別の中で生き抜いてきた人びとへの敬意

大正期の部落改善運動について公開シンポジウムを開く
山田稔

月刊滋賀の部落 392 (滋賀県同和問題研究所刊, 2006. 6) : 400円

近江民衆史研究の先駆者畑中誠治先生 木全清博

滋賀における部落解放運動の証言 水平社運動の戦士、
元部落解放同盟滋賀県連副委員長 朝野温知 3 鈴木俊亮
しこく部落史 8号 (四国部落史研究協議会刊, 2006. 3)

特集 第11回全国部落史研究交流会

喜田貞吉と部落問題—部落史研究をめぐる諸環境から—
吉田栄治郎／被差別民の真宗信仰 有元正雄／宿神信仰
と被差別民—「かわた」を中心に 水本正人／「同愛会
と有馬頼寧」素描 白石正明／中央融和事業協会の創設
手島一雄

入門部落史 2 土佐藩政期中期以降の農民の生活 井澤武大

史料センター事業ニュース 12号 (奈良県立同和問題
関係史料センター刊, 2006. 3)

研究あれこれ 三十三所信仰と部落—宇陀西国三十三所
の場合— 磯部信孝

人権21 調査と研究 181 (岡山人権問題研究所刊, 2006. 4) : 650円

特集 街づくりの試み 医療生協の実践に見る

資料から見た新見地方の農村生活 12 山地と村について
3 竹本豊重

人権21 調査と研究 182 (岡山人権問題研究所刊, 2006. 6) : 650円

岡映さん追悼特集

私の本棚 三浦展『下流社会』 菅木一成

人権と部落問題 744 (部落問題研究所刊, 2006. 4) : 630円

特集 人権教育の指導方法をめぐって

文芸の散歩道 ハンセン病を扱った高村光太郎の戯曲
「青年画家」 川端俊英

差別と向き合うマンガたち 25 マンガのファッション
何をどう着てどう履くか 吉村和真

戦後同和行政の展開と支配政策 1 「占領政策による同
和对策禁止」説について 上 杉之原寿一

人権と部落問題 745 (部落問題研究所刊, 2006. 5) : 630円

特集 広がる「九条の会」

現憲法の国民権主義と皇室典範改正問題 井ヶ田良治
大阪府「学力等実態調査」「同和実態調査」子どもの成長・発達とは無縁 田中康寛

文芸の散歩道 近世文芸に著されたハンセン病—説経節
「しんとく丸」より— 小原亨

差別と向き合うマンガたち 26 稗史の志—下層社会と異
端を描く— 田中聡

戦後同和行政の展開と支配政策 2 「占領政策による同
和对策禁止」説について 下 杉之原寿一

人権と部落問題 746 (部落問題研究所刊, 2006. 6) : 630円

特集 弓矢裁判で問われたもの

本棚 『島崎藤村の人間観』 (川端俊英著) 桑原律

文芸の散歩道 「観菊花偶記」と華族令—夏目漱石と明
治を歩く 4— 水川隆夫

差別と向き合うマンガたち 27 差別表現是正の反作用—
梶原一騎・矢口高雄『おとこ道』事件— 表智之

戦後同和行政の展開と支配政策 3 「占領期の同和对策」
杉之原寿一

人権と部落問題 747 (部落問題研究所刊, 2006. 7) : 630円

特集 教育基本法「改正」案の問題点

文芸の散歩道 没後百年・松林伯円の「天人娘」出版百
十年の明治開化講談 秦重雄

差別と向き合うマンガたち 28 マンガの方言 誰がどの
ように喋るのか 吉村和真

戦後同和行政の展開と支配政策 4 「無為無策」からの
転換 杉之原寿一

季刊人権問題 第4号 (兵庫人権問題研究所刊, 2006. 4) : 735円

兵庫県における戦後部落解放運動と兵庫県政 下 杉之原
寿一

身同 26号 (真宗大谷派解放運動推進本部刊, 2006. 5)

2004年度人権週間ギャラリー展シンポジウム 「部落問
題とハンセン病問題 その重なりからみえてくるもの」
藤野豊・鈴木則子・大北規句雄・訓覇浩

2005年度人権週間ギャラリー展シンポジウム 「差別と
戦争1 部落差別と戦争」 朝治武・仲林弘次・訓覇浩
東本願寺火災と、部落のひとびとの消火活動 雨森慶為
差別するものの解放論 2 辻内義浩

「宗教的救済意識」に関する考察 1 訓覇浩

日本植民地下のハンセン病問題 ソロクト更生園・台湾
楽生院訴訟 大屋徳夫

三業惑乱の中の部落寺院とその信仰 積極的な意味を求
めて 阪本仁

書評

鎌田慧著『狭山事件 石川一雄、四十一年目の真実』 濱
口安宏／上杉聰著『これでわかった！部落の歴史 私の
ダイガク講座』 樋口曜

水平社博物館研究紀要 8号 (水平社博物館刊, 2006. 3) : 1,000円

洞村移転の思想的相貌 八箇亮仁

大正末期、融和運動論の諸相—地方改善部『融和』 (三
好伊平次・編集発行人) の位置— 手島一雄

史料紹介 『同和通信』に見る「水平社関係記事」2 金

- 2006.6) : 500円
 信州の近世部落の人びと 14 斎藤洋一
 同和問題再考 66 田村正男
 わたしと部落とハンセン病 9 林力
 部落差別の現実 47 露骨な土地差別 江嶋修作
かわとはきもの 135 (東京都立皮革技術センター台東支所刊, 2006.3)
 靴の歴史散歩 80 稲川實
 シリーズ姫路革 6 姫路革文庫の名定一呂 出口公長
 皮革関連統計資料
関西外国語大学人権教育思想研究 9号 (関西外国語大学刊, 2006.3)
 バングラデシュにおける外国直接投資の現況とそれがもたらす社会問題 内田智大
 都市高齢社会と地域活動 大田垣義夫
 「児童虐待」防止と学校教育の課題—子どものSOSを聴ける人権感覚と組織的行動力を! 岡澤潤次
 人権救済制度について 久禮義一
 同和・人権・現代日本社会 松田健
 人権関連記念日365日 加藤昌彦
関西学院大学人権研究 10 (関西学院大学人権教育研究室刊, 2006.3)
 (反) グローバリゼーションプロセスにおける人権運動の位置づけ: 経済的、社会的、文化的諸権利に対するNGOの新たな支援活動 On-Kwok Lai
 『震災』が明らかにしたもの、『復興』が隠したもの—10年の検証課題とは— 日野謙一
 異人論再考—「排除」の民俗学のために— 山泰幸
 人権教育のための世界プログラム 中道基夫
関西大学人権問題研究室紀要 52号 (関西大学人権問題研究室刊, 2006.3)
 自閉症児における言語学習の心理学的的方法 (欧文) 藤井稔
 日本統治期の台湾・朝鮮における「国語」教育 下 鳥井克之, 熊谷明泰
季節よめぐれ 220号 (京都解放教育研究会刊, 2006.5)
 ジェンダーをめぐる問題の現状 古久保さくら
季節よめぐれ 221号 (京都解放教育研究会刊, 2006.6)
 アメラジアンでいこう! 市川トーマス友基
 人の世に熱あれ 人間に光あれ 清原隆宣
季節よめぐれ 222号 (京都解放教育研究会刊, 2006.7)
 差別っていったいなんやねん?—もっとホンネで、もっと本気で!— 川口泰司
グローブ 45 (世界人権問題研究センター刊, 2006.4)
 日本国籍をもつ在日コリアンの子どもたち 松下佳弘
 「神武天皇陵」と丸山眞男 秋定嘉和
 『パッチギ!』のリアリティをめぐる 倉石一郎
芸能史研究 172 (芸能史研究会刊, 2006.1) : 1,800円
 「楽戸」の伝流—芸能民差別の源流を考える— 山路興造
こころ 3 (野洲市人権情報センター刊, 2006.5)
 講演再録 土地差別問題について 奥田均
こべる 158 (こべる刊行会刊, 2006.5) : 300円
 ある大学入試の設問をめぐる 野町均
 過去を記憶する意味—化製業の軌跡を追う— 中島久恵
 著『モノになる動物のからだ—骨・血・筋・臓器の利用史』 恩智理
 歴史を学ぶ女性たち 重信陽子
 いのち—生き合う 2 杉山光洋
こべる 159 (こべる刊行会刊, 2006.6) : 300円
 「現存した社会主義」の経験が、部落問題に示唆するもの—塩川伸明氏の所論から考える 加藤宏樹
 瓶はビンではなくカメと読む—宗景正著『夜間中学の在日外国人』 次田哲治
 「清廉潔白な者」=「白丁」のこと 大沢敏郎
 廃校 中西宏次
 いのち—生き合う 3 人びとに支えられて 杉山光洋
こべる 160 (こべる刊行会刊, 2006.7) : 300円
 関係のなかで生きる「知」を一『差別とハンセン病「終の垣根」は今も』を読む 福岡ともみ
 老人ホームで一八年—思い出すこと多し 中村大蔵
 DV被害者を支援する 坂倉加代子
佐賀部落解放研究所紀要 23 (佐賀部落解放研究所刊, 2006.3)
 若者の就労問題—排除される若者たち: フリーター・ニート 内田龍史
 自尊感情をめぐる子どもの現状 富安信一
 史料紹介 『口達録』(その一) 中村久子
雑学 32号 (下之庄歴史研究会刊, 2006.5) : 800円
 異能者論 5 上野茂
 『奈良県被差別部落史』史料集第5巻 下之庄関係文書発刊される 上野茂
 二つの「意識調査」を読む 奈良市(05年3月)と奈良県連青年部(05年4月) 吉田智弥
 中上健次私論ノート17 高桑健二
 「どうしても気になったこと」に照らしての石原千秋著『国語教科書の思想』 土岸喬慶
 なぜ北原泰作は天皇に直訴したか 朝治武
 部落差別と暴力—供犠・犠牲、そして… 辻本正教
月刊滋賀の部落 390 (滋賀県同和問題研究所刊, 2006.4) : 400円
 人権教育と「人権感覚、態度・行動」の関連 川辺勉
 滋賀における部落解放運動の証言 水平社運動の戦士、元部落解放同盟滋賀県連副委員長 朝野温知 2 鈴木俊亮
月刊滋賀の部落 391 (滋賀県同和問題研究所刊, 2006.5) : 400円

今週の1冊 『人間選別工場 新たな高校格差社会』 (斎藤貴男著)

ぶらくを読む 11 浪曲にみる放浪芸の栄枯盛衰 湧水野亮輔

解放新聞 2265号 (解放新聞社刊, 2006. 4. 17) : 80円
今週の1冊 『原発を考える50話』 (西尾漢著)

解放新聞 2266号 (解放新聞社刊, 2006. 4. 24) : 80円
今週の1冊 『壁をたたく音がきこえる』 (山下峰幸ほか著)

山口公博が読む今月の本

『病気にならない生き方』 (新谷弘実著) / 『姜尚中の政治学入門』 (姜尚中著) / 『野間宏 人と文学』 (黒古一夫著)

解放新聞 2267号 (解放新聞社刊, 2006. 5. 1) : 120円
解放の文学 2 井伏鱒二と『徴用中のこと』—ゆるぎない言動 音谷健郎

今週の1冊 『いま平和とは一人権と人道をめぐる9話—』 (最上敏樹著)

解放新聞 2268号 (解放新聞社刊, 2006. 5. 15) : 80円
今週の1冊 『壊れる男たち セクハラはなぜ繰り返されるのか』 (金子雅臣著)

解放新聞 2270号 (解放新聞社刊, 2006. 5. 29) : 80円
主張 組織の総点検を厳しくおこない誇りと信頼を回復する組織建設へ

今週の1冊 『松本清張の陰謀』 (佐藤一著)

山口公博が読む今月の本

『権利のための闘争』 (イエーリング著) / 『湯けむりスナイパー』 (松森正画, ひじかた憂峰作) / 『博士の愛した数式』 (小川洋子著)

解放新聞 2271号 (解放新聞社刊, 2006. 6. 5) : 120円
解放の文学 3 金子文子と獄中手記『何が私をこうさせたか』 音谷健郎

今週の1冊 『日本という国』 (小熊英二著)

ぶらくを読む 12 カムイはどこへいくのか 湧水野亮輔

解放新聞 2272号 (解放新聞社刊, 2006. 6. 12) : 80円
今週の1冊 『マルチチュード <帝国>時代の戦争と民主主義』 (アントニオ・ネグリ, マイケル・ハート著)

解放新聞 2273号 (解放新聞社刊, 2006. 6. 19) : 80円
福岡県久留米市にみる学校選択自由化の現状 2
今週の1冊 『生きざま死にざま』 (三國連太郎著)

解放新聞 2274号 (解放新聞社刊, 2006. 6. 26) : 80円
飛鳥会問題で除名処分に向けての大阪府連見解
今週の1冊 『遺伝子組み換え作物はいらない!』 (天笠啓祐著)

山口公博が読む今月の本

『酒池肉林 中国の贅沢三昧』 (伊波律子著) / 『緑の資本論』 (中沢新一著) / 『自分自身への審問』 (辺見庸著)

解放新聞大阪版 1643号 (解放新聞社大阪支局刊, 2006. 5. 22)

(財) 飛鳥会理事長・小西邦彦氏の逮捕に対する大阪府連の見解

解放新聞改進黨 345号 (部落解放同盟改進黨支部刊, 2006. 3)

教育改革と同和教育 教育改革は、子どもたちに何をもたらしたのか 1 同和教育の原点を見つめ直す
改進黨地区の歴史 3 野田村の生活 2

解放新聞改進黨 346号 (部落解放同盟改進黨支部刊, 2006. 4)

教育改革と同和教育 教育改革は、子どもたちに何をもたらしたのか 2 学力格差の背景にあったもの
君死にたまふことなかれ 靖国の思想を問う

解放新聞改進黨 347号 (部落解放同盟改進黨支部刊, 2006. 5)

教育改革と同和教育 教育改革は、子どもたちに何をもたらしたのか 3 教育改革の登場と同和教育
改進黨地区の歴史 4 野田川と高瀬川 1

解放新聞京都市版 174号 (部落解放同盟京都市協議会刊, 2006. 4) : 100円

探訪 部落の近・現代史 5 全国水平社初代事務所 千本

解放新聞京都市版 175号 (部落解放同盟京都市協議会刊, 2006. 5) : 100円

梅本新議長に聞く

探訪 部落の近・現代史 6 京都市内最初の改良住宅 錦林

解放新聞京都版 725号 (解放新聞社京都支局刊, 2006. 6. 20) : 70円

『むこうにみえるは』改進黨の部落史 1

架橋 14号 (鳥取市人権情報センター刊, 2006. 3)

講演要旨 それでも やっぱり がんばらない〜新しいし
ばりあわない ゆるやかな絆〜 鎌田實

鳥取県の解放保育の現状と課題 坂根政代

鳥取県における部落解放運動の現状と展望 椋田昇一

語る・かたる・トーク 134 (横浜国際人権センター刊, 2006. 4)

信州の近世部落の人びと 12 斎藤洋一

同和問題再考 64 「同対審」—その舞台裏 完 田村正男

わたしと部落とハンセン病 7 林力

部落差別の現実 45 出身若者の都会生活 江嶋修作

語る・かたる・トーク 135 (横浜国際人権センター刊, 2006. 5) : 500円

信州の近世部落の人びと 13 斎藤洋一

同和問題再考 65 噴き出した「毒饅頭論争」 田村正男

わたしと部落とハンセン病 8 林力

部落差別の現実 46 地区出身若者の都会体験 江嶋修作

語る・かたる・トーク 136 (横浜国際人権センター刊,

収集逐次刊行物目次 (2006年4月～6月受入)

～各逐次刊行物の目次の中から部落問題関係のものを中心にピックアップしました～

大阪の部落史通信 38 (大阪の部落史委員会刊, 2006. 3)

『大阪の部落史』第2巻の刊行によせて 中尾健次
世界考古学会議中間会議大阪大会2006参加記 別所秀高, 松井章

書評と紹介 『史料集 浪速部落の歴史』(「浪速部落の歴史」編纂委員会編) 藤井寿一

岡山部落解放研究所紀要 14号 (岡山部落解放研究所刊, 2006. 5)

宇田家文書史料集

解放教育 462 (解放教育研究所編, 2006. 5) : 740円

特集 生活つくり方 このよきものを未来へ
元気のもととはつながる仲間 14 心をひとつにしたとき夢はかなう CD制作編 外川正明

解放教育 463 (解放教育研究所編, 2006. 6) : 740円

特集 全国の仲間と結んで人権教育を創る一日教組教研の取り組みから

元気のもととはつながる仲間 15 心をひとつにしたとき夢はかなう—ジョイントコンサート編 外川正明

解放教育 464 (解放教育研究所編, 2006. 7) : 740円

特集 教育の基本を問いかける一日教組・人権教育からの提起

元気のもととはつながる仲間 16 同和教育は、みんなでするもの—学校事務職員から 外川正明

倫敦マイノリティ事情 4 スコットランドのマイノリティ教育—教育国における反差別とインクルージョン 林壽和彦

解放研究 19 (東日本部落解放研究所刊, 2006. 3) : 2,

100円

宗教に問いかけるもの—寺院住職差別事件の糾弾を通して— 和田献一

近世における勸進の変化と地域社会—下野国を中心に— 坂井康人

近世北奥地域における被差別集団—弘前藩領の歴史的な実態とその編成— 浪川健治

関東水平社福島支部主幹者「栃木勇吾」とは誰か 菅野守

初期水平運動と民族問題—平野小劔研究 5— 朝治武

えた頭弾左衛門配下組織の研究 下—下野国安蘇郡佐野犬伏町小頭太郎兵衛配下組織を例に— 岡雄一郎

解放社会学研究 19 (日本解放社会学会刊, 2005. 4) : 2,000円

特集 特別措置法後の部落差別の現実はどう切り込むか 差別研究の新たな位相 創立20周年記念シンポジウムを終えて 要田洋江／差別をめぐる知の位相 人権教育(同和教育)の場から 大庭宣尊／同和行政と部落解放研究の課題 同和地区実態等調査と市民意識調査から見えてきたもの 神原文子

書評×リプライ

コリン・バーンズ、ジェフ・マーサー、トム・シェイクスピア『ディスアビリティ・スタディーズ—イギリス障害学概論』 堀江有里／神原文子『家族のライフスタイルを問う』 松波めぐみ×神原文子／ましこひでのり 『あたらしい自画像「知の護身術」としての社会学』 山田富秋×ましこひでのり

解放新聞 2263号 (解放新聞社刊, 2006. 4. 3) : 120円

事務局より

師岡先生には京都部落史研究所時代に、事務職員として12年間お世話になりました。歴史についてよくわかっていないトンチンカンな私のような職員にも、部落史を編纂する中で気づかれたことや感動されたことをその時々、丁寧にわかりやすく熱意を込めて話をしてくださる所長でした。いつでも誰にでも、同じ目線で誠実に向き合ってくださいました。沖縄に行かれてからも京都に帰って来られた時には必ず資料センターに寄ってください、沖縄の基地をめぐる状況や沖縄文化の奥深さを熱く語ってくださいました。またお会いできるのを楽しみにしていましたが、本当に残念でなりません。(平野)

8月の閉室日は下記の通りです。土曜日の開室日が今月はありませんのでご注意ください。

土曜・日曜・14日(月曜日)～17日(木曜日)

□所在地 〒603-8151 京都市北区小山下総町5-1 京都府部落解放センター3階

□TEL/FAX 075-415-1032

□URL <http://www.asahi-net.or.jp/~qm8m-ndmt/>

□開室日時 月曜日～金曜日 第2・4土曜日 10時～17時(祝日・年末年始は休みます)

□交通機関 市営地下鉄烏丸線「鞍馬口」駅(京都駅より約10分)下車 北へ徒歩2分